

第4回 生命文化誌セミナー

Interdisciplinary lecture **林真理** Makoto Hayashi

工学院大学教授（生物学史・科学哲学，科学技術社会論）

<http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~ft12153/>

“サイエンスの外から見る「細胞」”

2009年1月17日（土）13:00-17:00

早稲田大学 先端生命医科学研究センター（TWIns）

50号館 3F セミナールーム3



今回は、早稲田大学先進理工学研究科のオムニバス集中講義「『細胞を創る』科学」の一環として行っていただく講義の一つを「生命文化誌セミナー」として一般の方々にも広く公開します。今回ご講演をお願いする林さんは、科学技術社会論，科学史（生物学史），生命思想史をテーマに研究を始められ，日本科学史学会生物学史分科会や，「細胞を創る」研究会（<http://www.jscsr.org>）社会・文化ユニットの主要メンバーの一人でもあります。

生物学的に「生命の最小単位」とされる「細胞」は，今では殆どの方が何らかの形で知っている概念ですが，現在のよう形で理解されるようになった経緯はどんなものだったのでしょうか。また，細胞に関するイメージや理解が，生命に関するイメージや理解とどのように関わっているのでしょうか。近年話題になってきた「人工細胞を創る試み」の思想的・哲学的・歴史的な背景や含意についてお話を伺い，皆さんと考えてみたいと思います。どうぞふるってご参加ください。

林 真理 さんのプロフィール

工学院大学 工学部 教授（生命思想史・科学技術社会論・生命倫理）

1963年生まれ。東京大学大学院理学系研究科博士課程中退。近代ドイツにおける細胞概念の成立と展開に関する生命思想史の研究からスタートし，最近では日本における生命倫理論争および生命科学技術の社会的受容過程の歴史的研究を行っている。著書に『操作される生命：科学的言説の政治学』（NTT出版 2002年），共著に『生命科学の近現代史』（勁草書房 2002年），『公共のための科学技術』（玉川大学出版部 2002年），『いのちの倫理学』（コロナ社 2004年），細胞概念に関する論文として「駆け巡る細胞たち」（『現代思想』2008年），「「細胞」概念の非本質主義的歴史試論」（『生物学史研究』1999年），「生命の哲学の自己解体作業—Schleidenにおける科学と哲学—」（『生物学史研究』1996年）など多数。

連絡先：岩崎秀雄（早稲田大学 理工学術院 先進理工学部，科学技術振興機構さきがけ）

hideo-iwasaki@waseda.jp

高橋透（早稲田大学 文学学術院 文化構想学部）

tтору@waseda.jp

本研究会のページ <http://www.f.waseda.jp/hideo-iwasaki/bioculture4.html>